

目次

1 章 木造軸組構法住宅の構造計画	2	2 四分割法	89
1 壁量の確保（壁量計算）	6	(1) 側端部分の必要壁量を算出	90
(1) 必要壁量の算出	8	(2) 側端部分の存在壁量を算出	91
(2) 必要壁量の決定	12	(3) 側端部分の壁量充足率と壁率比を算出	91
(3) 存在壁量の算出	13	(4) バランスの判定	91
(4) 判定	21	3 N 値計算法	98
2 壁配置のバランス（四分割法）	22	(1) 壁倍率の差 A を算出	101
(1) 側端部分の必要壁量を算出	24	(2) 筋かいの補正值の決定	101
(2) 側端部分の存在壁量を算出	25	(3) 係数 B,L を決定	103
(3) 側端部分の壁量充足率と壁率比を算出	25	(4) N 値を算出	104
(4) バランスの判定	26	(5) 柱頭・柱脚部の接合金物等を選択	104
3 柱の柱頭・柱脚の接合方法	28	演習回答	114
(1) 告示の仕様による選択	30	3 章 耐震性向上のための留意点及び対策方法	
(2) N 値計算法	34		118
4 基礎の仕様	42	1 長尺筋かいを用いる場合の留意点	119
(1) 布基礎	43	2 出隅の柱に 2 方向の高倍率耐力壁が取り付く場合の N 値の割り増し	120
(2) ベタ基礎	45	3 耐力壁が取り付く柱の下階に柱が無い場合の N 値計算法等	121
(3) 基礎ぐい	47	4 耐力壁が取り付く柱の下階に柱が無い場合の梁の設計	128
5 屋根ふき材等の緊結	48	5 多雪区域や仕上げが重い場合における必要壁量の割り増し	130
6 土台と基礎の緊結	49	6 垂れ壁・腰壁等の耐震性能	132
7 柱の小径等	50	7 壁量計算における床面積の考え方	135
(1) 柱の小径	50	8 筋かい壁の階高が高い場合の壁倍率の低減	136
(2) 細長比	51	9 圧縮筋かいと引張筋かいの配置	138
(3) 柱の欠取り	52	4 章 耐風性向上のための留意点及び対策方法	139
(4) 通し柱	53		139
8 横架材の欠込み	54	1 地域や地形に応じた風圧力の考え方	141
9 筋かいの仕様	56	2 基準風速や建設地の実況等に応じた木造小屋組の接合方法の選択	146
(1) 筋かいの最小断面	56	3 各接合方法の施工上の留意点	150
(2) 筋かい端部	57	5 章 最近の木造軸組構法住宅の基準の改正内容	155
(3) 筋かいの欠込み	58	6 章 建築士事務所の保存図書の制度の見直しの内容	163
10 火打材等の設置	59		
(1) 火打材の設置	59		
(2) 小屋組の振れ止め	60		
11 部材の品質と耐久性の確認	61		
2 章 演習	66		
事例概要	67		
1 壁量計算	69		
(1) 必要壁量の算出	70		
(2) 必要壁量の決定	81		
(3) 存在壁量の算出	82		
(4) 判定	88		